

日製低頭内六角CAP螺絲(合金鋼10.9級/白鐵A2-70)

ローヘッドキャップスクリュー Low Head Cap Screws (鋼・ステンレス)



仕 様

	鋼 製	ステンレス鋼製
材 質	構造用合金鋼	SUS304相当
硬 さ	32~39 HRC	—
強度区分	10.9	A2-70
公差クラス	JIS 6g*	JIS 6g*
表面処理	黒色酸化被膜	パレル・パンベート

特 長

頭部高さが低いので狭い場所にて使用が可能です。

用 途

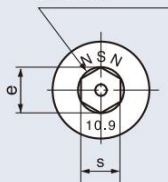
機械、装置、メーター類のカバー
取付

※但し、ねじの谷底R M6以下は2級
※但し、ボルトの頭部強度は、最小極限引張力の80%とする。

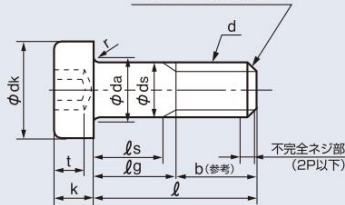
在庫サイズ

鋼 製	M3~M12
ステンレス	M3~M12

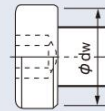
六角穴には、内面取りを施してもよい。



面取り先とする。
M4以下は、あら先でもよい。



丸み又は、面取りを施した頭部



頭部の頂面側及び座面側には、丸み又は面取りを施してもよく、ぼり、かえり等がなくてはならない。

全ねじ首下詳細図

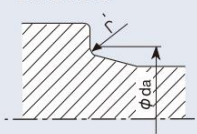


表1 ローヘッドキャップスクリューの寸法・精度

尺寸 精度

単位: mm

ねじの呼び (d)		M3	M4	M5	M6	M8	M10	M12
ねじのピッチ (p)		0.5	0.7	0.8	1.0	1.25	1.5	1.75
ϕdk	基準寸法	5.5	7	8.5	10	13	16	18
	許 容 差	$\begin{smallmatrix} 0 \\ -0.18 \end{smallmatrix}$		$\begin{smallmatrix} 0 \\ -0.22 \end{smallmatrix}$			$\begin{smallmatrix} 0 \\ -0.27 \end{smallmatrix}$	
ϕda	最 大	3.6	4.7	5.7	6.8	9.2	11.2	14.2
e	最 小	2.30	2.87	3.44	4.58	5.72	6.86	9.15
全ねじ範囲		20	25	25	30	35	40	50
b (参考)		18	20	22	24	28	32	36
k	基準寸法	2	2.8	3.5	4	5	6	7
	許 容 差	$\begin{smallmatrix} 0 \\ -0.14 \end{smallmatrix}$			$\begin{smallmatrix} 0 \\ -0.18 \end{smallmatrix}$			$\begin{smallmatrix} 0 \\ -0.22 \end{smallmatrix}$
r	最 小	0.1	0.2	0.2	0.25	0.4	0.4	0.6
s	基準寸法	2	2.5	3	4	5	6	8
	許 容 差		$\begin{smallmatrix} +0.10 \\ +0.02 \end{smallmatrix}$		$\begin{smallmatrix} +0.14 \\ +0.02 \end{smallmatrix}$		$\begin{smallmatrix} +0.175 \\ +0.025 \end{smallmatrix}$	
t	基準寸法	1.5	2.3	2.7	3	3.8	4.5	5.0
	許 容 差		± 0.12				± 0.15	
ϕdw	最 小	4.80	6.20	7.60	8.80	11.60	14.80	16.20

備 考 ϕds 、 ℓ 、 ℓs 、 ℓg 寸法はP5~6を参照。

表2 引張強さ及び最大締付けトルク (材質構造用合金鋼)¹⁾

強度&最大鎖附力 合金鋼款式

参考

ねじの呼び(d)	M3	M4	M5	M6	M8	M10	M12
最小極限引張力(N) ²⁾³⁾	4,180	7,300	11,800	16,700	30,500	48,200	70,200
最大締付けトルク T _{max} (N・m)	1.40	3.24	6.42	10.87	26.21	51.75	88.02

表3 引張強さ及び最大締付けトルク (材質ステンレス鋼)¹⁾

強度&最大鎖附力 白鐵款式

参考

ねじの呼び(d)	M3	M4	M5	M6	M8	M10	M12
最小極限引張力(N) ²⁾³⁾	2,816	4,920	7,952	11,280	20,480	32,480	47,200
最大締付けトルク T _{max} (N・m)	1.01	2.33	4.66	7.90	18.99	37.57	64.07

- 注 意
- 保証荷重応力及びくさび引張強さは適用しない。
 - 上記引張力をねじ軸方向にかけたとき、ねじは破断することなく耐えること。
 - 引張力を増加して破断させたとき、破断はねじ部、円筒部又は、頭部と軸部との付け根のうち、どこで発生してもよい。